



(上) 外壁の補修前と補修後の様子。防水処理を行った後に杉板を貼り、キシラデコールでカラーリングを行った。
 (下左) ロフトからLDKを眺めた様子。昔からの梁をデザインとして残した。(下右) 子供部屋の様子。奥に見える収納の建具と建具の間に見える柱は奥様が幼少のころに背の高さを記録していた柱。



改修のポイント

リフォームをする際にサッシを取り換えまたは新たに設置することは常に頭を悩まされることの一つです。その理由は、サッシを取り外したり取り付けたりする場合にはその周りの外壁を大きく切り欠くことになるからです。この補修をするにはサッシの周りに新しいサイディングを貼るなどの施工を行うのですが、今まで家を守ってくれた外壁と新たな外壁との調和がうまくいかない場合、外観のデザインがつぎはぎのような見た目になってしまい好ましくありません。今回の改修では、外壁のデザインの一部として杉板を貼ることでこの問題を解決しました。これにより、補修した部分も新しさを主張することなく、昔からの外壁とうまくなじんでくれました。また、この家では、古いものをただ取り換えるのではなく、生かせるものは活かすという考えを盛り込みました。たとえば、LDKは勾配天井となっているのですが、天井をあげることによってあらわれた梁はあえてそのまま化粧として見せています。バランスを考え位置の移動は行いましたが今までそこにあったからこそ出る味いを醸し出しています。また、ロフトの手すりにも以前から架かっていた梁を利用しました。子供部屋にも昔の家の名残があります。部屋の一部に奥様がこの家で子供のころに背の高さの記録を残した柱をもとあった場所から移設して残しました。この柱にお子様たちの成長の記録が新たに記されていくことでしょう。



1

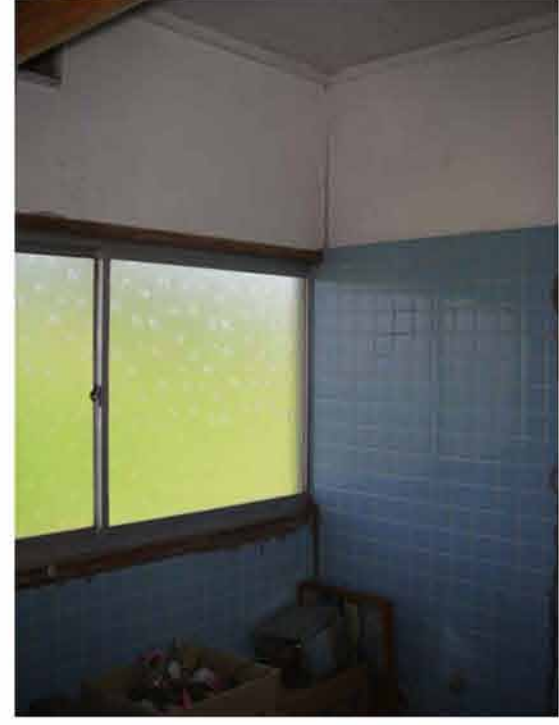
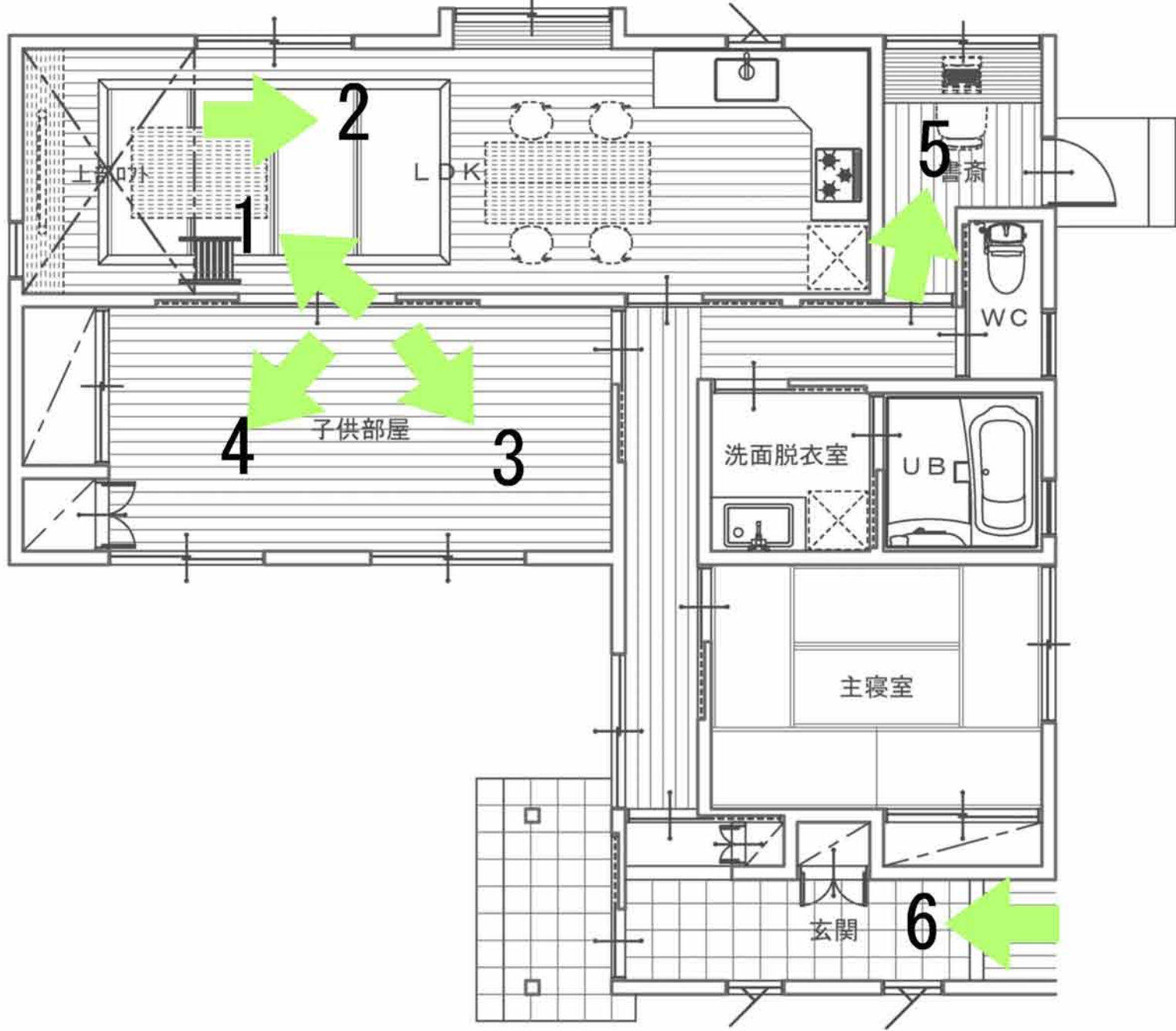


2

Before
&
After



3



5



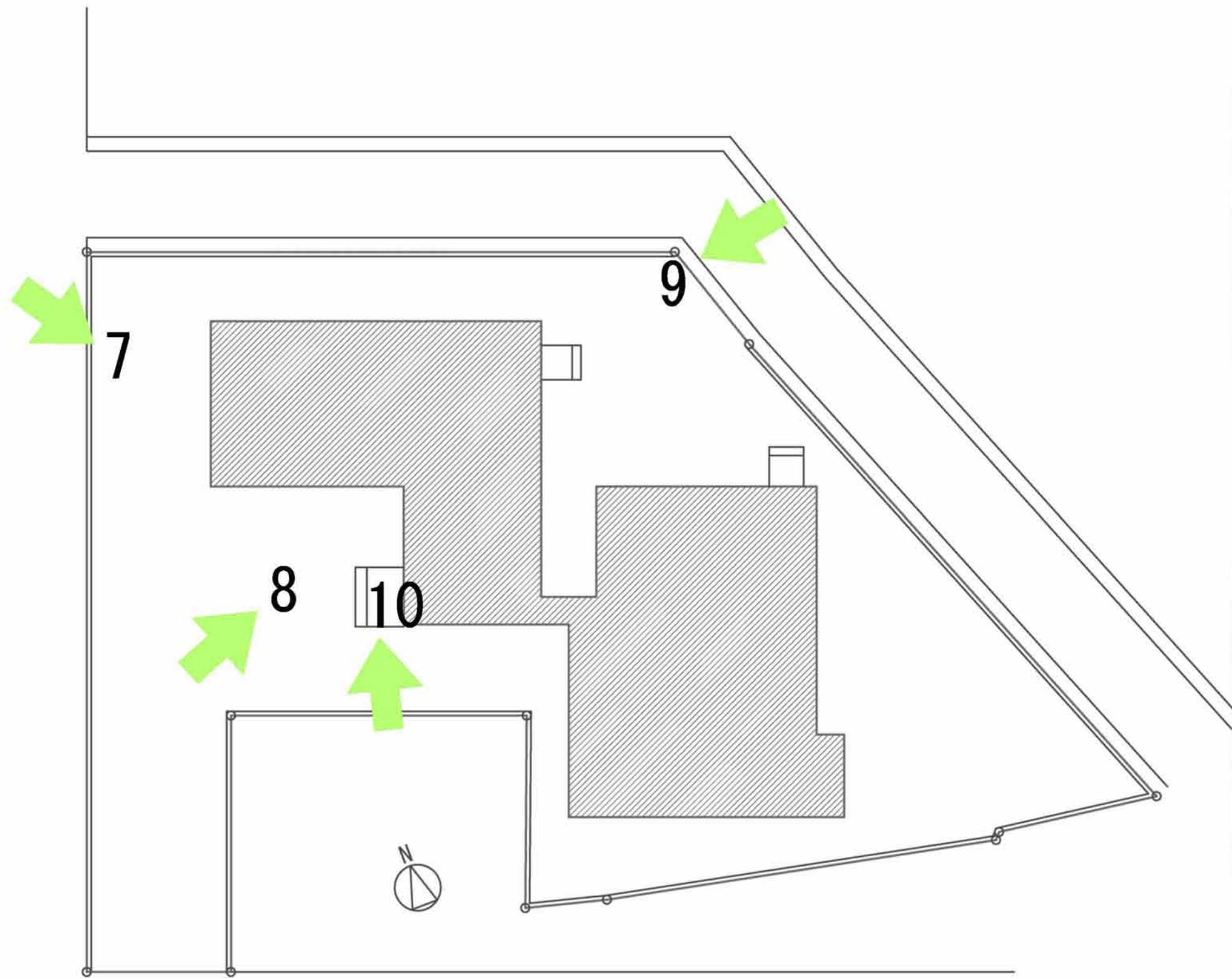
4



6



7



9



8



10

